

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 八幡 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
本市	16.69	20.49	33.79	42.59	55.22	9.38	154.29	23.74	55.23

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77	55.90
本市	16.24	19.41	37.96	40.62	44.39	9.61	147.43	13.93	56.64

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

本校では、体育の時間の学習で十分に運動量を確保したり、毎時間「めあて」「ふり返り」の活動を行えるようにしたりして、たくましい体の育成に努めています。また体育委員会を中心に取り組んでいる「元気っ子タイム」(昼休みの外遊び推奨)、「おもしろ体力測定」、「体力アップ月間」(マラソンや縄跳びによる体力向上の取り組み)を行うことにより、「運動やスポーツは大切なもの」と考える子どもが多くなってきています。一方で、「運動やスポーツをすることは好き」と考える子どもは女子に少ないです。放課後や休みの日に運動を行う子どもが女子に多いことから、家庭や地域と連携して体力向上を目指すことが必要だと考えています。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全ての児童が「運動が楽しい」、「体育が楽しい」と感じることができるよう、達成感を味わえる授業づくりに努めていきます。そのために、「めあて」「ふり返り」の活動を今後も確実に行った、課題解決のための話し合い活動・学び合い活動を積極的に取り入れたりしていきます。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・休み時間の「元気っ子タイム」を継続し、積極的に外遊びを推進していきます。
- ・5、6年生は、水曜日の朝に中学生と一緒に中学校の運動場で「朝ラン」を行っています。
- ・2月に体力アップ月間を設定し、中学校の運動場を活用してマラソンや縄跳びを行っています。
- ・オープンスペースに「わくわくスポーツコーナー」を設置し、日常的に立ち幅跳びや反復横跳びに挑戦できるようにしています。
- ・これらの取り組みを今までも学校通信や学年通信、HP等で紹介してきました。今後も児童が学校外でも運動する意識がもてるように地域や家庭に発信していきます。